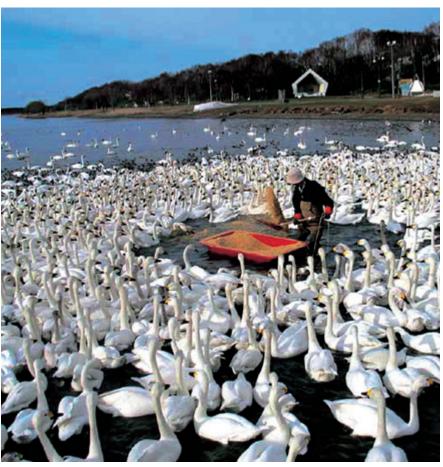
# ッチャロ湖

位置: 北緯45度09分、東経142度20分/標高: 1 ~ 2m / 面積: 1607ha / 湿地のタイプ: 淡水湖、低層湿原/保護の制度: 国指定鳥獣保護区特別保護地区 /所在地:北海道浜頓別町/登録:1989年7月/国際登録基準:2、3、6



コハクチョウへの給餌

## 湿地の概要:

クッチャロ湖は、北海道浜頓別町のオ ホーツク海沿岸にある周囲27kmの淡水 湖で、日本最北の湖である。大沼と小沼 の二つからなり、北側と西側を標高10 ~40mほどの丘陵に囲まれ、東側は砂 丘、南側には湿原が広がっている。平均 水深は1.5m、もっとも深いところでも 2.5mと全体に浅い湖である。

上流部の小沼にはヤスベツ川、オビン ナイ川、二号沢川、仁達内(にたちない) 川、ポン仁達内川、オサツナイ川の6本 の川が、下流の大沼へはレカエウシュナ イ川と築紫川が流れ込んでいる。流れ出 す川は大沼の東からオホーツク海に流れ 出るクッチャロ川だけで、満潮時には海 水が大沼に逆流する。

トドマツ、アカエゾマツなどの針葉樹 を中心とした北方系森林に囲まれた湖の 岸辺には、ヨシの群落が見られる。湖に はさまざまな水生植物が生育し、ヤハズ カワツルモやタテヤママリモなどの稀少 種も確認されている。

湖内ではスジエビやシジミ、ワカサギ などの漁業もおこなわれている。

## 日本列島の玄関:

クッチャロ湖は水鳥の渡り鳥の中継地 として重要で、ガンカモ類を中心に290 種の鳥類が確認され、「東アジア・オー ストラリア地域フライウェイ・パートナ ーシップ」重要生息地ネットワークに参 加している。シベリアで繁殖し、日本で 越冬するコハクチョウの日本最北の中継 地、いわば日本列島の玄関口にあたり、 毎年春と秋、約6000羽のコハクチョウ がここに集結する。オジロワシやオオワ シの越冬地にもなっている。

#### ハクチョウへの手助け:

クッチャロ湖は北海道の最北端に位置 しているが、対馬暖流の影響で気候は比 較的温暖である。とはいえ12月下旬か ら3月上旬までは全面結氷し、1月中旬 から3月下旬までは流氷が接岸すること もある。湖が凍結している間、エサがと れなくなるハクチョウのために、1965 年ごろボランティアの手によって給餌活



クッチャロ湖(写真:岡田操)

湿地のタイプ:淡水湖



小沼(奥)と大沼(手前)

動がはじまった。

この活動は、現在も、湖の氷が解ける までの間つづけられている。その中心とな っているのが湖畔に設置された水鳥観察 館で、給餌のほか、湖の環境保全、地元 の子どもたちへの環境教育などを実施し ている。こうした活動には地元の漁業組 合、農業組合なども参加、協力している。 【コハクチョウの渡り】コハクチョウは、 夏の6月~9月頃、シベリア・ツンドラ 地帯で繁殖。10月頃から幼鳥をつれ、樺 太沿いに南下し、クッチャロ湖周辺に到 着する。ここでいったん休養し、本州な どの越冬地へさらに南下する。春の4月 ~5月頃、再びクッチャロ湖周辺にもど って休養し、北極圏へと帰っていく。ク ッチャロ湖はいわばターミナル駅である。

#### ●関係自治体

浜頓別町役場 Tel: 01634-2-2345

